

市街地整備と都市景観の変容について*

A Study on Relationship between Urban Development Projects and Change of Townscape

倉持正行**・中川三朗***

by Masayuki KURAMOCHI** and Saburo NAKAGAWA***

1. はじめに

近年、各都市では、地域の活性化を考慮した良好な都市環境を形成するために、既成市街地における街路等の整備事業が行われている。さらに土地利用の改善や景観の整備により都市の特色や魅力を引き出すための計画が立案され、実現に向けて様々な整備事業がなされている。

そこで本研究では、市街地整備と都市景観の変容について考察することを目的とする。具体的には、栃木県足利市の中心市街地における街路整備事業に着目し、それに伴う市街地の動向や都市景観の変容について考察する。

2. 調査対象地域

足利市のまちづくりの特徴としては、歴史的建造物の保全と活用を目的とした景観整備が進められている。そこで、歴史的環境を活かした都市像を目標とした計画と整備を調査し、その経過と現在の状況を調べることで、都市の変遷を調査する。

足利市は、栃木県の南西部に位置し、群馬県に隣接している。人口は約16万5千人(平成8年10月現在)、面積は約177km²で、東京から80km圏にある両毛地域を代表する都市である。市街地の中央を東西に渡良瀬川が流れ、市を南北に2分している。北部には、旧市街地が形成されており、その中心部に国指定史跡の「足利学校」や「鏝阿寺」がある。幹線道路は、県道桐生岩舟線(旧国道50号線)が東西に走っている。また、鉄道は、JR 両毛線が東西に敷設されており、足利駅がある。南部には、新市街地が形成されており、大型店の進出が多く見られる。幹線道路は、国道50号線(バイパス)が東西に走り、鉄道は、東武伊勢崎線の足利市駅

*Keywords: 市街地整備、都市景觀、地域変容

* * 学生員 足利工業大学大学院 土木工学専攻

都市計画研究室 (〒326 栃木県足利市大前町 268-1)

***正会員 工博 足利工業大学教授 工学部土木工学科

がある。そして、国道 293 号線が市を南北に貫いている。本研究では、図-1 に示す歴史的環境を形成している国指定史跡を中心とした旧市街地の約 40ha とする。

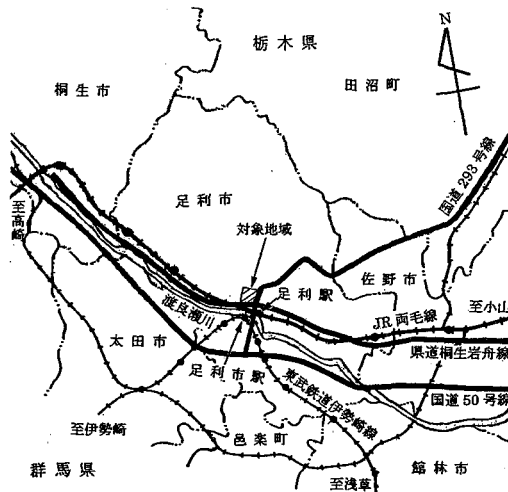


图-1 对象地域

3. 整備事業の変遷

昭和45年5月に制定された足利市の市民憲章の一つに「足利市は日本最古の学校のあるまちです。教育を深め、文化のかおり高いまちをつくり、優れた伝統をさらに展開しましょう。」とあり、伝統的な都市環境を形成しようという動きがある。

昭和51年6月に策定された『第3次足利市振興計画（基本構想）』では昭和60年度を目標とした施策の大綱が定められている。その中で理想の将来像の一つとして、市の特色である伝統的文化遺産の保護や活用を考慮した新しい文化を創造する教育文化都市と挙げられており、同年7月に策定された『第3次足利市振興計画（基本計画）』では、昭和55年を目標年度として、基本構想で挙げられた理想の都市像を具体化するための方策と事業について定めている。この振興計画の実現に向けて、『特色のあるまちづくり推進委員会』等

表-1 足利市の整備状況の変遷

年度	総合計画	制度	事業名	委員会・協議会	主体
S.51	第三次足利市振興計画 (基本構想)				足利市
S.61	第三次足利市振興計画 (基本計画)				足利市
S.53~55				特色あるまちづくり推進委員会	足利市
S.54				伝統的文化都市環境事業計画策定委員会 および 伝統的文化都市環境事業計画策定委員	足利市
S.54				中核通り整備計画研究会	足利市
S.54~55			伝統的文化都市環境保存地区整備事業		国土庁
S.55				都市デザイン委員会	足利市
S.55	商業近代化地域計画 (ファッションタウン構想)				商工会
S.56				史蹟足利学校跡整備協議会	足利市教育委員会
S.56	第三次足利市振興計画 (改訂)				足利市
S.57			史蹟足利学校跡保存整備事業		足利市
S.57~H.2			足利学校・鏝阿寺周辺保存整備推進協議会		足利市
S.57~H.元			歴史的地区環境整備街路事業		建設省
S.58				中核通り東地区再開発研究会に改組 (旧中核通り整備計画研究会)	足利市
S.60	第四次足利市振興計画				足利市
S.60~H.7			中核通り東地区再開発地区環境事業		足利市
S.61			通り二丁目第一ブロック活性化協議会に改組 (旧中核通り東地区再開発研究会)		足利市
S.61~H.2			残れるまちづくり事業		栃木県
S.62		足利市歴史的まちなみ・ 都市景観整備条例	歴史的まちなみ風景事業	足利学校・鏝阿寺参道まちなみを考える会	足利市
S.62~H.2			電線地中化事業		栃木県
S.63				大日東土地区環境整備研究会	足利市
S.63~H.2			「足利学校」復元工事	足利市教育委員会	足利市教育委員会
H.元				中核通り東まちづくり組合	足利市
H.元~H.3			ふるさと創生事業		国
H.2			大日東土地区環境整備事業		足利市
H.4		足利地域商店街等活性化実施計画協賛会			商工会
H.8	第五次足利市振興計画				足利市
H.9		足利市大日周辺地区 市街地総合再生計画策定調査			足利市
H.9		商店街商業施設等活性化基本環境調査			足利市
H.9		ウォーキング・トレイル事業基本計画検討委員会			足利市

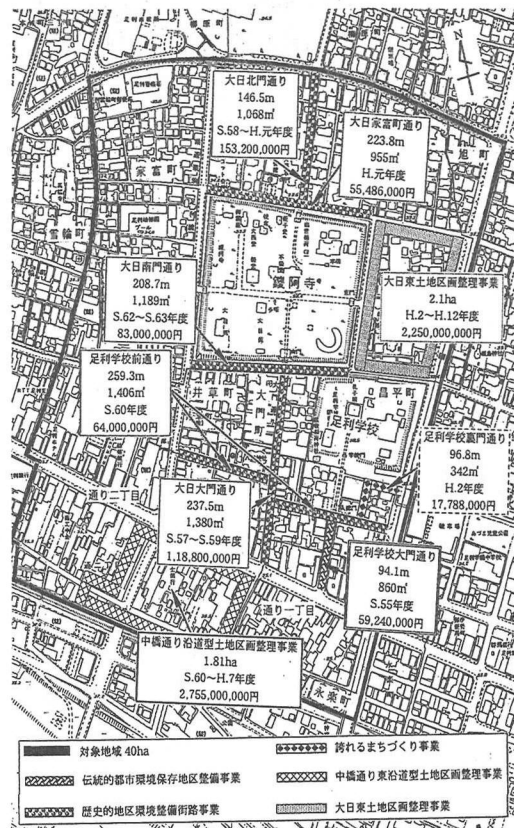


図-2 対象地域の整備内容

の様々な委員会や協議会が組織され、都市のデザインや歴史的建造物等の活用や保存、歴史的雰囲気への創出等についての検討がされた。

具体的な整備事業としては、昭和55年度の『伝統的文化都市環境保存地区整備事業』、昭和57年度から平成2年度にかけての『歴史的地区環境整備街路事業』が挙げられる。『伝統的文化都市環境保存地区整備事業』は、県道桐生岩舟線から足利学校の大門を結ぶ足利学校大門通り（聖廟線）の延長94.1m、幅員11mのアスファルト舗装の街路を御影石舗装にする整備や植栽や街路灯の整備をしたり、電柱の地中化等が行われた。それと鏝阿寺四周の歩道約800mの整備として鉄平石舗装や手摺を銅板で覆う改修が行われた。『歴史的地区環境整備街路事業』は、鏝阿寺への参道である大日大門通りをはじめ、大日北門通り、大日南門通り、大日家富町通り、足利学校前通りを御影石やピンコロ等の舗装材を用いた石畳舗装整備が行われ歴史的雰囲気への創出と景観を考慮した整備が行われた。大日大門通りに関しては、街路整備に伴うポケットパーク整備やシンボルである鏝阿寺の遠景を考えた一部の電柱移設等が行われた（写真-1、写真-2参照）。

昭和60年度を目標にした第3次振興計画が終了し、次いで、昭和60年12月に第4次振興計画が策定され

た。その中では、歴史的地区の環境整備として第3次振興計画から引き続き、足利学校・饒阿寺周辺の通りの石畳整備の促進や、都市再開発事業として『中橋通り東沿道型土地画整理事業』、土地画整理事業として大門東地区の『大日東土地画整理事業』の計画がされている。『中橋通り東沿道型土地画整理事業』は、昭和60年度から平成7年度にかけて施行された。事業は、家富町堀込線の拡幅に併せた沿道型土地画整理である。整備面積1.81haの区域は、足利学校や饒阿寺への出入り口となっている中橋があり、周囲の歴史的な雰囲気と調わせるとともに、良好な土地利用を考慮した整備が実施された。また、近代化している都市との調和をはかった施設の整備が考えられており、平成元年に美術館が建設された。『大日東土地画整理事業』は、饒阿寺の東側に面する区域2.1haの土地利用の改善や饒阿寺の東門への参道を整備する目的で、平成2年度から平成12年度を目標に着工されている。また、平成2年度には、『誇れるまちづくり事業』により、国道293号線沿いの駐車場と足利学校や饒阿寺を結ぶ参道である足利学校裏門通りの石畳舗装整備や堀の浄化、足利学校裏門通りのポケットスペースの整備等が行われた。

昭和62年の『歴史的まちなみ修景事業』では、民間空間である沿道の建物の景観の整備をはかるために「足利市歴史的まちなみ・都市景観整備要綱」を定めた。具体的には、伝統的文化都市環境保存地区整備事業、歴史的地区環境整備街路事業の沿道一宅地と足利学校・饒阿寺周辺地域における都市開発事業実施地区を対象とし、200万円を限度額として修景の補助をする制度であり、現在21件の修景が行われている。

平成元年度の『ふるさと創生事業』では、市民からアイデアを募集し、足利市のシンボルである「足利学校」と「饒阿寺」にちなんで『孔子像』と『足利尊氏公像』が建立された。

足利学校は、昭和57年『足利学校史跡保存整備事業』に着手してから昭和63年度までに7次の発掘調査が行われ、この調査や資料調査により江戸時代の宝暦6年(1756年)頃の姿にすることが決まり、復元工事が昭和63年12月に着工し、平成2年12月に竣工した。

対象地域に影響を与えていると考えられる整備事業の内容を図-2に示す。

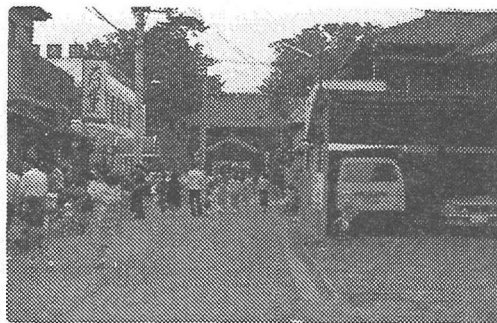


写真-1 整備前の大日大門通り

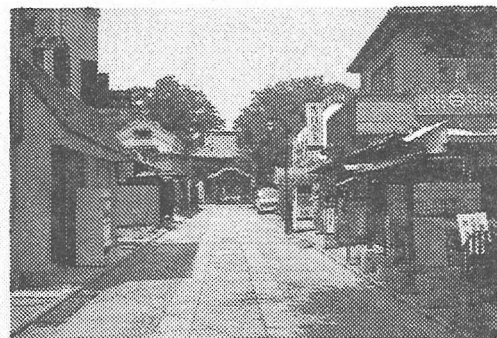


写真-2 整備後の大日大門通り

4. 整備の影響分析

整備事業の目標として、国指定史跡に相応しい街路の整備、地区の歴史的・伝統的環境の保全と活用、歴史的・伝統的環境の活用による個性と魅力のある都市づくり、沿道の景観の整備や旧市街地の人口の流出による衰退を防ぐことや、既成市街地商店街の活性化、居住環境の改善等が挙げられている。

整備事業の影響として調査対象地域の人口と世帯数の推移(図-3)を見ると、昭和55年度の整備事業の実施から、人口と世帯数の両方とも昭和55年度をピークとして年々減少しており、目標として挙げている旧市街地の人口流出による衰退を防ぐことができておらず、整備事業の効果が現れていないと言える。このことは、整備事業のほとんどが景観の整備を目的とした街路整備なので、効果が現れなかったと考えられる。

参観者と駐車場利用台数の推移(図-4)を見ると、平成3年度は、NHKの大河ドラマ「太平記」の影響により特異であるが、それを除くと街路が整備される前よりは、昭和59年度から平成2年度にかけての『歴史的地区環境整備街路事業』による街路整備の完了後から

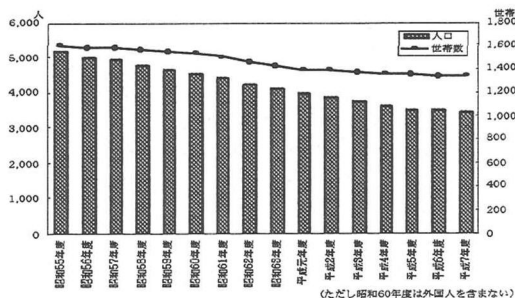


図-3 対象地域の人口・世帯数の推移

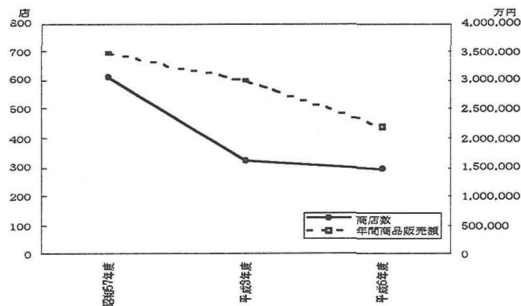


図-5 商店数・年間商品販売額

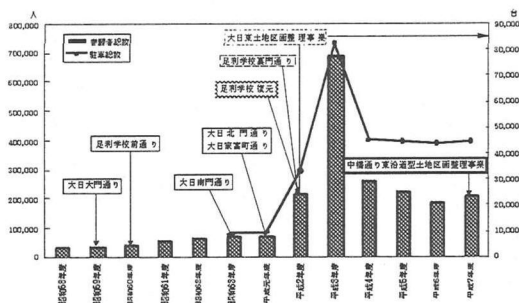


図-4 参観者数・駐車場利用台数

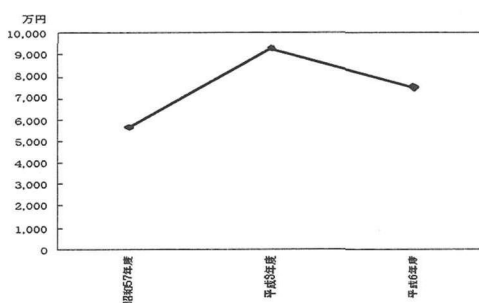


図-6 1店舗当たり商品販売額

は、増加傾向を示している。しかし、この事業だけの効果ではなく、昭和55年度に実施された『伝統的文化都市環境保存地区整備事業』による街路整備や『足利学校史跡保存整備事業』による足利学校の復元と関係して影響が現れていると考えられる。すなわち、歴史的雰気の創出や歴史的・伝統的環境の保全と活用を目的とした景観の整備に関しては、整備事業の効果が現れていると言える。

商店数・年間商品販売額の推移(図-5)を見ると商店数・年間商品販売額が減少傾向にあり、整備事業による効果が現れていない。しかし、1店舗当たりの商品販売額(図-6)の推移を見ると、商店数・年間商品販売額が減少傾向にあるのに対し、特異な平成3年度を除いて、昭和57年度と平成6年度を比べても増加傾向にある。観光客の増加に伴う影響もあると考えられるが、それも含めて足利学校の復元や街路整備による効果が現れていると考えられる。

的・伝統的環境の保全と活用を目的とした整備事業が多く実施されており、都市の景観は変容している。その中でも、足利市のシンボルである「足利学校」や「鰻阿寺」を活かした周辺の街路の石畳舗装整備等の景観の整備は、参観者数や駐車場利用台数、1店舗当たりの商品販売額の増加に良い効果が現れていると言える。また、このことは、複数の整備事業との関わりにより、効果が現れたことが考えられる。しかし、人口や世帯数は、減少傾向にあり、実施されてきた整備事業による居住環境の改善については、効果が現れていない。すなわち、行政による公共空間(街路)の整備がなされたのに過ぎず、より効果を高めるためには、民間空間である建物の修景等を含めた道路空間全体の整備や都市の居住環境の整備が必要と考えられる。

今後は、歴史的環境を活かした整備が行われている他の都市との比較を行いたい。

参考文献

- 1) 事業概要は、足利市発行の報告書によった。
- 2) 足利市：統計あしかが、1993～1996年報
- 3) 足利市：足利市の商業、昭和57年～平成6年

5. まとめ

足利市における整備事業の変遷を調査した結果、史跡を活かした伝統的・歴史的な都市環境の創造と歴史